

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501233		
法人名	有限会社 エイチ・ティ・エス		
事業所名	グループホーム パストラル 1 (2階)		
所在地	札幌市清田区平岡4条3丁目23-27		
自己評価作成日	平成22年12月27日	評価結果市町村受理日	平成23年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者様のペースに合わせたケアを心がけています。食事の時間や過ごし方など、出来るだけ本人の希望に添えるよう支援しております。

スタッフはチームケアを大切にして、個別ケアに取り組んでいます。又、定期的に行なっている内部研修では積極的に参加し学んだ事をケアに活かせるよう日々、努力しております。

地域との協調では、併設している英会話教室の生徒さんと交流したり、近所の美容室の利用など顔なじみの関係作りを力を入れています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170501233&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年2月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<職員を育てる取り組み>
法人内の内部研修を毎月開催し、権利擁護に関する制度の理解や認知症ケアの理念、職業倫理や接遇マナー、アセスメントの重要性や生活支援等職員の段階に応じた研修が年間計画され、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。

<戸外に出かけられる支援>
一人ひとりのその日の希望に沿って、近隣への散歩や大型スーパーでの買い物、ファミリーレストランや回転寿司への外食など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段行けない場所でも、年間行事予定を立案し、定山溪温泉への一泊旅行や豊平峡での紅葉狩り、平岡梅林見物や駒岡公園散策等本人の希望を把握し、出かけられるよう取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の重要性を会議や、研修会で学び理念の共有と実践に努めている。	事業所独自の理念をつくりあげ、毎月開催するユニット会議や研修会等を通じて話し合い、理念を共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年から町内会に入ることが出来たので今以上に地域とのかかわりを増やし、交流を深めていきたい。	町内会加入がやっとできた段階だが、フラダンスや趣味の活動のボランティアの受け入れや併設している英会話教室の地元生徒達とのふれあい等を通じて日常的な交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が来訪した際に、困っている事や認知症の方についてアドバイスをしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの行事や町内会について話し合い構成員の方の協力のもと町内会に加入することが出来ました。	昨年の管理者交替以降、2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。運営推進会議では、町内会との連携や地域交流など具体的に話し合っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括担当者と連絡を取り相談したり、会議の中で話し合いをして、協力関係を築いている。	市担当者や包括支援センターとの連携の重要性を理解し、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げ、研修にて具体的な内容を学び、スタッフ全員が理解を深めているが、やむを得ず現在は玄関を施錠している。今後は施錠のないホームを目指したい。	高齢者虐待防止や身体拘束廃止について、内部研修を実施し、管理者及び職員の共有が行われている。また、玄関の施錠については安全配慮の側面等について家族や運営推進会議で話し合い、早い段階で開錠できるように努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法についての研修機会を設けスタッフの認識を高めている。又、ご家族にも理解を得られるよう必要時に、話し合う機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修機会を設け制度を学び、必要性を話し合っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行ない納得を得ているが、入所後もご家族からの要望などに柔軟に対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見用紙を設置し、意見や要望を気軽に表せるよう配慮している。又、外部機関の案内も契約時に説明している。意見や要望があった場合は窓口担当が即対応し改善している。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の用紙や受付箱を設置している。また、市町村等の相談窓口等も見やすい場所に掲示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの意見などは管理者を通じて代表者に話し、必要に応じて話し合いの場を設けている。	ユニット会議や内部研修時等を通じて意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。また、そこでの意見を運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの意見や苦情などはその都度代表者と話し合い職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回内部研修を行い各スタッフのレベルに合った内容の研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会の参加や、研修会での他施設職員との交流が出来る機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ず本人と面会しホームにも見学に来て頂く様にしており、不安や要望がないかその都度対応して安心の確保に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には、ご家族との話し合いを十分にとり、その後も連絡を取り合いながらご家族の不安や要望に柔軟に対応し出来るだけ希望に沿ったケアを行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、ケアプランを作成し、必要時は他のサービスの利用に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や掃除など、当たり前の生活をスタッフと共にやり、支えあいながら生活をし関係を築いている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の前には家族にも連絡をとり参加していただき、本人と一緒に過ごしていただくことで、本人と家族の関係が今までと変わらず良いものであるよう配慮している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入所後も以前と変わらない生活が継続できるよう支援している。本人の意に添えるような対応を心がけている。	コンビニエンスストアやスーパーでの買い物、寿司やレストランでの外食、美容室への送迎等馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や性格を把握し、孤立することがないように、スタッフが配慮し、良い関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も必要に応じて相談などに応じている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を傾聴し、アセスメントに活用している。困難な場合は利用者本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向や嗜好の把握に努め、職員間で情報の共有が行われている。	今後は、利用者の生活歴や本人のこだわり、強さ、願い等さらなるアセスメントの把握の充実に期待します。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	支援経過を毎日記録として残し、馴染みの暮らし方が継続できるよう支援している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況や体調に合わせたリズムを重視し、1日の暮らしの中から食事・排泄睡眠の状況や体調の変化等を記録に残している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスから本人の目標や支援内容をチームで検討し介護計画につなげている。3ヶ月ごとのモニタリングや変化に応じて見直しを行っている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、モニタリングやサービス担当者会議を通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画やケアプランはスタッフがいつでも見れる状況にあり情報を共有している。気づきノートを活用し、介護計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外にも多くの選択肢を提供し、一人ひとりのニーズに合った対応を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアなどの受け入れなど地域の方の協力を得ながら楽しみを提供している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じた医療機関を選択できるように支援している。又、通院時は家族にもかかわっていただき同行していただいている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師の往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師をスタッフとして確保している。気づきや変化はすぐに看護師へ報告し、指示をあおいでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は添書を渡し、利用者の情報がスムーズに医療機関にわたるよう配慮している。又、早期退院に向け家族や医療機関との話し合いを行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いはもちろんのこと、かかりつけ医の助言なども取り入れながら方針を共有し、支援している。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設置しているが、全てのスタッフが理解しているとはいえない為今後、訓練や研修を行う必要がある。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防の方の指導を受けている。又、今後は地域の方との協力体制を整えていく準備をしている。	スプリンクラーがまだ設置されていないが、消防署の協力のもと年2回火災避難訓練や避難誘導訓練を実施している。	今後はさらに地域との連携や関係機関との連携等緊急時に備えた、さらなる防災対策と一時避難場所の確保の検討に期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格・人格を把握し、個々に合った声かけ対応をしている。	身体拘束廃止や虐待防止、接遇マナーの内部研修を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話の中から希望や思いを汲み取り、実現できるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者によっては、職員側の都合で食事の時間や、就寝時間が決まっている方もいる為、希望に添えない場面もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者の室温・湿度に気を配ったり整容に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	あらかじめ苦手な食べ物を把握してそれに添ったメニューを提供している。食事作りや準備を一緒に行っている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、毎日の調理や食事の準備等楽しんで行えるよう努めている。また、食事・水分摂取量を記録し、把握している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて水分・食事チェックを行い、摂取量の確認をしている。状態によっては栄養補助食品などを使用して栄養のバランスに配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には声かけ促しを行い、介助が必要な方には毎食後口腔ケアを行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、出来るだけオムツを使用しない支援を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や活動などで出来るだけ自然に排便が出来るように支援している。便秘の方には下剤の調整を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜勤帯では安全の面から入浴は控えていただいているが、その他の時間帯、曜日などは出来るだけ本人の希望に応じて入浴していただいている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、本人の希望する曜日や時間等に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもその方の身体状況に配慮して休息の時間をつくるよう心がけている。又、寝具は本人の使い慣れたものを使用して安心できるように配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬一覧表を作成しスタッフがいつでも見る事が出来るよう設置している。又、会議などでも薬の理解について話し合っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的な外出支援やレクリエーションを行っている。個々に合った役割や楽しみを提供し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り外出の希望には対応している。又、家族や知人との外出の支援や地域の方と協力しながら本人の行きたいところへ行けるよう努めている。	近隣への散歩や大型スーパーでの買い物、ファミリーレストランや回転寿司への外食など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、定山溪温泉への一泊旅行や豊平峡での紅葉狩り等出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を得て少額のお金を管理して自由に使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	準備などはスタッフが代行し電話でお話したり、年賀状のやり取りが出来るように支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節の花を生けたり、行事の飾りつけをしている。湿度や気温の管理に努め過ごしやすい空間作りに配慮している。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、リビングや廊下の壁には、観葉植物や季節毎の飾りつけ、行事参加の写真や広報誌等が掲示等され、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置いて好きな場所で過ごせるように配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のスペースに限りがあるが、出来るだけ昔から使用していた寝具や家具を持ち込んでいただき生活している。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人で出来ること、わかることの情報を共有し、自立した生活の支援をスタッフ一同で行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501233		
法人名	有限会社 エイチ・ティ・エス		
事業所名	グループホーム パストラル 2 (1階)		
所在地	札幌市清田区平岡4条3丁目23-27		
自己評価作成日	平成22年12月27日	評価結果市町村受理日	平成23年2月14日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170501233&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者様のペースに合わせたケアを心がけています。食事の時間や過ごし方など、出来るだけ本人の希望に添えるよう支援しております。

スタッフはチームケアを大切にして、個別ケアに取り組んでいます。又、定期的に行なっている内部研修では積極的に参加し学んだ事をケアに活かせるよう日々、努力しております。

地域との協調では、併設している英会話教室の生徒さんと交流したり、近所の美容室の利用など顔なじみの関係作りに力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の重要性を会議や、研修会で学び理念の共有と実践に努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年から町内会に入ることが出来たので今以上に地域とのかかわりを増やし、交流を深めていきたい。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が来訪した際に、困っている事や認知症の方についてアドバイスをしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの行事や町内会について話し合い構成員の方の協力のもと町内会に加入することが出来ました。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括担当者と連絡を取り相談したり、会議の中で話し合いをして、協力関係を築いている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げ、研修にて具体的な内容を学び、スタッフ全員が理解を深めているが、やむを得ず現在は玄関を施錠している。今後は施錠のないホームを目指したい。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法についての研修機会を設けスタッフの認識を高めている。又、ご家族にも理解を得られるよう必要時に、話し合う機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修機会を設け制度を学び、必要性を話し合っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行ない納得を得ているが、入所後もご家族からの要望などに柔軟に対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見用紙を設置し、意見や要望を気軽に表せるよう配慮している。又、外部機関の案内も契約時に説明している。意見や要望があった場合は窓口担当が即対応し改善している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの意見などは管理者を通じて代表者に話し、必要に応じて話し合いの場を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの意見や苦情などはその都度代表者と話し合い職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回内部研修を行い各スタッフのレベルに合った内容の研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会の参加や、研修会での他施設職員との交流が出来る機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ず本人と面会しホームにも見学に来て頂く様にしており、不安や要望がないかその都度対応して安心の確保に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には、ご家族との話し合いを十分にとり、その後も連絡を取り合いながらご家族の不安や要望に柔軟に対応し出来るだけ希望に沿ったケアを行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を見極め、ケアプランを作成し、必要時は他のサービスの利用に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や掃除など、当たり前の生活をスタッフと共にを行い、支えあいながら生活をし関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の前には家族にも連絡をとり参加していただき、本人と一緒に過ごしていただくことで、本人と家族の関係が今までと変わらず良いものであるよう配慮している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入所後も以前と変わらない生活が継続できるよう支援している。本人の意に添えるような対応を心がけている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や性格を把握し、孤立することがないように、スタッフが配慮し、良い関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も必要に応じて相談などに応じている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や日常の中で状況の把握に努めている。又、申し送りや会議など常に職員間で情報交換を行い希望・意向の把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当者、本人から今までの生活等の情報を十分に聞き把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの入居者の把握をスタッフの共通認識になるよう努め、更に認識を共有していけるよう努力している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来るだけ本人の意向に沿った介護計画の作成に努めている。又、本人以外にも家族や主治医、他サービス関係者の意見やアイデアも反映している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入方法を変えて利用者の生活や気づきを分かりやすく記載している。又、情報の共有や介護計画に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外にも多くの選択肢を提供し、一人ひとりのニーズに合った対応を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアなどの受け入れなど地域の方の協力を得ながら楽しみを提供している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じた医療機関を選択できるように支援している。又、なじみの病院へ通院の送迎も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師をスタッフとして確保している。気づきや変化はすぐに看護師へ報告し、指示をあおいでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は添書を渡し、利用者の情報がスムーズに医療機関にわたるよう配慮している。又、早期退院に向け家族や医療機関との話し合いを行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いはもちろんのこと、かかりつけ医の助言なども取り入れながら方針を共有し、支援している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを置きスタッフに周知している。又、研修で対応の仕方などを学んでいる。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防の方の指導を受けている。又、今後は地域の方との協力体制を整えていく準備をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格・人格を把握し、個々に合った声かけ対応をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話の中から希望や思いを汲み取り、実現できるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者によっては、職員側の都合で食事の時間や、就寝時間が決まっている方もいる為、希望に添えない場面もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に努め希望に応じて美容室や床屋に行けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや禁止食品、カロリー制限などを把握した上で好みに応じた食事を提供している。又、出来る限り一緒に準備や片付けを行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて水分・食事チェックを行い、摂取量の確認をしている。状態によっては栄養補助食品などを使用して栄養のバランスに配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には声かけ促しを行い、介助が必要な方には毎食後口腔ケアを行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、出来るだけオムツを使用しない支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や活動などで出来るだけ自然に排便が出来るように支援している。便秘の方には下剤の調整を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜勤帯では安全の面から入浴は控えていただいているが、その他の時間帯、曜日などは出来るだけ本人の希望時に応じて入浴していただいている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもその方の身体状況に配慮して休息の時間をつくるよう心がけている。又、寝具は本人の使い慣れたものを使用して安心できるように配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬一覧表を作成しスタッフがいつでも見る事が出来るよう設置している。又、会議などでも薬の理解について話し合っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的な外出支援やレクリエーションを行っている。個々に合った役割や楽しみを提供し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	出来る限り外出の希望には対応している。又、家族や知人との外出の支援や地域の方と協力しながら本人の行きたいところへ行けるよう努めている。		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	家族の理解を得て少額のお金を管理して自由に使えるように支援している。		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	準備などはスタッフが代行し電話でお話をしたり、年賀状のやり取りが出来るように支援している。		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	その季節の花を生けたり、行事の飾りつけをしている。湿度や気温の管理に努め、過ごしやすい空間作りに配慮している。		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	ソファや椅子を置いて好きな場所で過ごせるように配慮している。		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室のスペースに限りがあるが、出来るだけ昔から使用していた寝具や家具を持ち込んでいただき生活している。		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	見てわかるようにトイレの張り紙をしたり、目の不自由な方のために行動範囲には危険物を置かないように配慮している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	今までは地域とのかかわりが少なく、町内会にも加入出来ていなかった。11月に町内会に加入することが出来たが、今後具体的にどのようにかかわっていくのか。が課題としてある。	ホームの理念でもある「地域との協調」の実現と認知症高齢者が安心して生活ができる地域づくり。	ホームスタッフ、利用者からの積極的なかわり(挨拶・行事への参加など)をもち、地域の一員として生活が出来るようになる。	1年
2	34	利用者の急変時や事故発生時について、マニュアルや一部の研修を行ってはいるが、実践も兼ねた訓練が繰り返し必要である。今後の研修会などに早期に取り入れて急変時に備えたい。	全職員が、応急手当や初期対応の知識を習得する。	内部外部の研修で知識を習得し、全職員が急変時・事故発生時に対応出来るようにする。又、繰り返し研修の機会を設け知識を深める。	6ヶ月
3	35	避難訓練は定期的に行っているが、地域との連携を図り協力体制を整える必要がある。又、災害時の避難場所などを具体的にし、全職員が対応出来るようにしたい。	火災・災害時は地域と連携を図り、スタッフ全員が利用者のスムーズな避難誘導が出来るようになる。	運営推進会議にて、地域の消防団に参加いただき、協力体制を整える。消防団の方との合同避難訓練を行う。	3ヶ月
4	38	勤務体制の都合上、利用者のペースに合わせる事が難しいこともあるが、今一度業務を見直し、少しでも改善できることがないかどうか話し合う必要がある。	利用者の日々の暮らしをスタッフの都合ではなく利用者の希望に添えるよう努力する。	各ユニットごとにミーティングを行い、これまでのスタッフ都合で優先してきたものを少しでも改善できないかどうか話し合う。	6ヶ月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。